



「総合演劇」210人の思い出を熱演 ～七中演劇の15年の歴史～

①総合司会 ②第1幕「陽だまり」 ③第2幕「おすぎさん」 ④第3幕「振袖地蔵」
⑤第4幕「追憶の不忘山」 ⑥第5幕「源流米」 ⑦第6幕「七中誕生物語」
⑧観客の様子 ⑨3年生(10名) ⑩2年生(7名) ⑪1年生(5名) ⑫全体写真



七ヶ宿中学校総合演劇の公演が11月4日、七ヶ宿町活性化センターで上演されました。脚本づくりから道具製作など、毎年生徒達が協力して仕上げた舞台は今年で15年目となり、200人近い観客を前に盛大に行われました。

1年生から3年生までの23人が全6幕に分かれて出演し、「210人がつないだバトン」七中演劇の歴史を振り返って」と題して、これまでの総合演劇の歴史についてインタビュー形式を織り交ぜながら、15年間に及ぶ集大成を演じました。

脚本は生徒達のオリジナル作品で、第1回目の七ヶ宿ダム湖底に沈んだ集落への思いを演じた「陽だまり」をはじめ、これまでに上演されてきた演劇の一場面を再現しながら、歴史を振り返る内容となっていました。第6幕では七ヶ宿中学校開校時に関わった方へアンケートを行い、統合への期待や不安の声を質問・回答形式でまとめ、自分たちの考察も交えながら発表していました。

自作ポスターの制作や防災無線による広報も全て生徒達による実行委員会が中心となり、全校生徒で知恵を出し合いながら行いました。また、演劇の練習は総合学習の時間を利用して稽古し、練習に励みました。

生徒一人ひとりの演劇に対する強い気持ちや歴史に対する思いが伝わる内容となりました。